

昭和十六年十月

菊池川改修計畫概要

起



D1

47

菊池川改修計畫概要

菊池川ハ熊本縣四大河川ノ一ニシテ、其ノ源ヲ阿蘇火山帶ニ屬スル深葉山ニ發シ、廣大ナル外輪諸山ノ溪流ヲ集メ隈府町ニ至リテ全ク山間ヲ離レ、山鹿盆地ヲ迂餘曲折シ右支迫間川、左支合志川ヲ合流シ、山鹿町下流ニ於テ右支岩野川ヲ合セ流向ヲ西ニ轉ジ山間部ニ入り十七軒ヲ流下シ小田村ニ至リ再ビ平地ニ進出ス、梅林村ニ於テ左支木葉川ヲ高瀬町南端ニテ右支繁根木川ヲ加ヘ、流路ノ迂曲數次ニ及ビ島原海灣ニ注グ、此ノ幹川流路延長七十二軒トス河口ノ潮差ハ四米七ニ達シ、滿潮時ニ於テハ舟楫ノ便アレドモ、干潮時ニアリテハ水深淺ク航行不能ナリ。

本川沿岸ハ地味豊饒ニシテ耕地一萬七千三百「ヘクタール」ヲ灌漑シ農作物殊ニ肥後米ノ主産地ニシテ、上流部ニアリテハ隈府町、來民町及山鹿町ヲ中心トシ、下流部ニアリテハ高瀬町及大濱町ハ物資ノ集散地ニ當リ、省線鹿兒島本線並ニ鹿本鐵道、菊池電氣軌道及國道第二號線其ノ他縱橫ニ走レル府縣道ハ流域内ノ主要交通網ヲナス。斯クノ如ク沿岸民ノ本川ニ負フ所極メテ大ナリト雖モ幹支川共河積狹少ニシテ且ツ屈曲著シク、一朝豪雨ニ際會セバ流水ノ疎通ヲ阻ミ洪水ノ氾濫甚大ニシテ、全平野水底ニ没シ其ノ慘害名狀スベカラズ、昭和十年ノ如キハ水害損失額百四十萬圓ニ達シ尙年々増加ノ趨勢アリ

リ同十五年ニ於テハ實ニ百六十萬圓ノ巨額ニ及ベリ。
 之レ多年本川改修ヲ切望セル所以ニシテ政府ニ於テモ其ノ急務ナルヲ認メ昭和十五年
 ヨリ之ガ改修工事ニ着手スルニ至レリ。

今調査資料及計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

- 一、流域面積 全流域 九九六平方糎 内山地 七九八平方糎
平地 一九八平方糎
 - 一、灌漑面積 全流域 一七、三〇〇「ヘクタール」
 - 一、水害面積 全流域 九、七〇四「ヘクタール」 改修區域内 七、八四四「ヘクタール」
 - 一、水害損失額 自昭和十一年至昭和十一年 一〇ヶ年平均 五五六、四〇〇圓
- 最 大 昭和十年 一、四〇〇、五〇〇圓

一、改修區域

幹川 下流部	左岸 熊本縣玉名郡江田村 右岸 同縣同郡玉名村	以下海ニ至ル	十四糎
幹川 上流部	左岸 熊本縣菊池郡清泉村 右岸 同縣同郡菊池村	以下 熊本縣鹿本郡米田村 同縣同郡山鹿町	十九糎
支川 木葉川	左岸 熊本縣玉名郡梅林村 右岸 同縣同郡同村	以下菊池川合流点ニ至ル	一糎
支川 岩野川	左岸 熊本縣鹿本郡八幡村 右岸 同縣同郡同村	以下菊池川合流点ニ至ル	四糎
支川 合志川	左岸 熊本縣鹿本郡田底村 右岸 同縣同郡同村	以下菊池川合流点ニ至ル	四糎
支川 追間川	左岸 熊本縣菊池郡加茂川村 右岸 同縣同郡郡岩村	以下菊池川合流点ニ至ル	五糎

一、改修計畫

小支川内田川 左岸 熊本縣菊池郡岩田村
右岸 同縣鹿本郡稻田村

二糎

本川上流平地部ニ於テハ斷續的ニ矮少ナル堤防アレドモ、大部分ハ無堤ニシテ、又下流部ハ堤防連續スト雖モ薄弱ナルヲ以テ、本改修計畫ニ於テハ舊堤ヲ擴築補強スルト共ニ新堤ヲ築設シテ洪水ノ氾濫ヲ防止セントス、而シテ河積不足ノ箇所ハ引堤ヲ行フト共ニ掘鑿又ハ浚渫ヲ施シテ所要ノ河積ヲ與フルモノトス。

加茂川村及山鹿町下流ハ流路ノ彎曲甚シキヲ以テ、捷水路ヲ開鑿シテ高水流量ノ快疏ヲ圖ラントス。

支川木葉川流末ハ寺田川ヲ擴張シテ之ニ落シ、合流点ヲ下流ニ引下グルコトトセリ尙幹支川ヲ通ジテ流路ノ屈曲著シキ箇所又ハ掘鑿箇所ニシテ河岸崩壞ノ虞アル部分ニハ護岸水制ヲ施シ、堤防及河岸ノ安固ヲ期シ、又新水路ニハ床固ヲ設ケテ河床ノ低下ヲ防止セントス。

一、計畫高水流量

幹 川	上流部 每秒 九五〇立方米乃至二、一〇〇立方米
支 川	下流部 每秒 三、〇〇〇立方米

木葉川 每秒 二〇〇立方米
 岩野川 每秒 六五〇立方米
 合志川 每秒 一、〇〇〇立方米
 迫間川 每秒 四五〇立方米乃至九〇〇立方米
 小支内田川 每秒 六〇〇立方米

一、計畫河幅

幹川 上流部 一一〇米乃至二二〇米

下流部 二二〇米乃至六〇〇米

支川 木葉川 四〇米乃至六〇米 岩野川 五〇米乃至一〇〇米 合志川 一二〇米乃至一四〇米 迫間川 八〇米乃至一四〇米 内田川 八〇米乃至二〇〇米

一、計畫堤防

改修堤防ハ合志川合流点以下ノ幹川ハ天端幅六米、天端餘裕高一米五、トシ合志川合流点上流ノ幹川及各支川ハ、天端幅五米、天端餘裕高一米二、トス。

尙幹支川共表法二割、裏法二割乃至二割五分、トシ川裏ニハ適當ナル幅員ノ小段ヲ附ス、而シテ山鹿町ノ一部ハ河岸ニ接シ人家櫛比シオルヲ以テ、特殊堤ヲ築造スルコトトセリ。

一、掘鑿土量 三、五九〇、〇〇〇立方米

一、築堤土量 四、九三〇、〇〇〇立方米

一、改修工事費 七、五〇〇、〇〇〇圓 内 國費 四、九五〇、〇〇〇圓 地方費 二、五五〇、〇〇〇圓

一、工事期間 自昭和十五年 至昭和三十一年 一六ヶ年

一、改修ノ効果

(イ) 改修區域内二十七町村七、三〇〇「ヘクタール」ノ水害ハ全ク除去サレ、年々ノ災害復舊費及耕宅地其他ノ諸損耗ニ基ク莫大ナル水害損失ヲ免ルルノミナラズ、農作物ノ生産額ハ著シク増加ス。

(ロ) 從來殆ド年々浸水ヲ見タル山鹿町ハ其被害ヲ除カルルヲ以テ、交通杜絶並各種商工業休止等ニヨル損失ヲ免ガレ、商工業ノ發達及文化ノ開發ヲ促スコト大ナリ
 (ハ) 河道ノ擴張並新川開鑿等ニヨリ洪水ノ疏通良好トナルノミナラズ、其停滯期間ヲ短縮スルヲ以テ、沿川土地ノ惡水排除良好トナリ卑湿地ノ改良ヲ促スコトヲ得
 (ニ) 連續セル改修堤防ハ道路ニ利用セラレ、地方交通ニ資スルコト大ナリ。
 (ホ) 其他運輸及交通機關ノ安全、各種産業ノ發達、衛生状態ノ改善等沿岸住民ノ受クル利益莫大ナリ。

昭和十六年十月

内務省下關土木出張所